

着付け職種技能検定 2級学科試験

令和5年6月13日（火）

一般社団法人全日本着付け技能センター

問題 1. 時代と服装の関係について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 十二単

2. 訪問着

3. 貫頭衣

ア. 室町時代

イ. 昭和時代

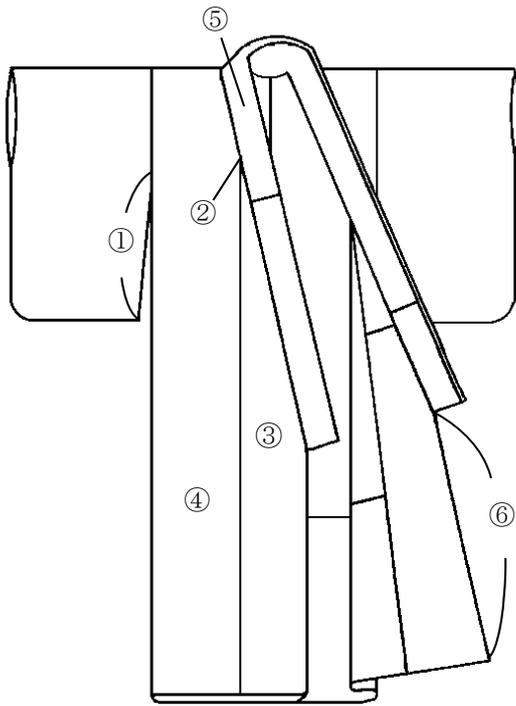
ウ. 弥生時代

エ. 平安時代

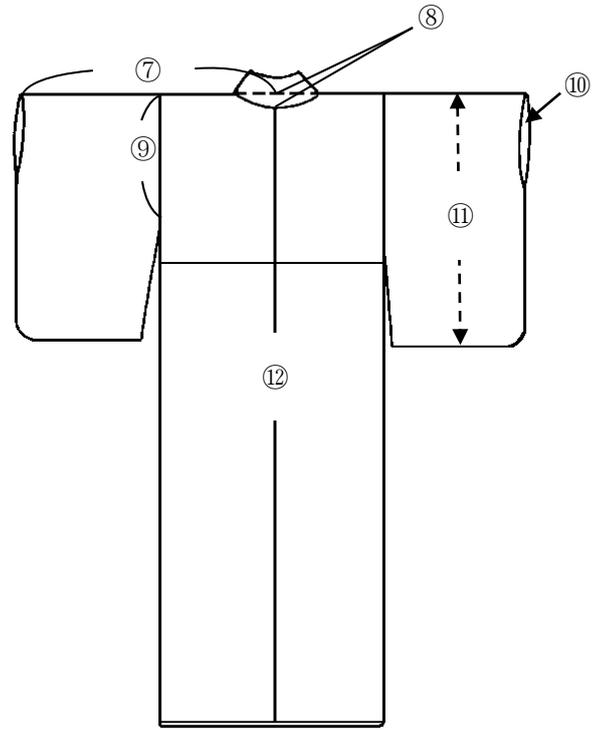
オ. 江戸時代

問題 2. 次の着物の各部位の名称について、それぞれの語群の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

I. 女物袷(前)



II. 女物袷(後)



[語 群 I]

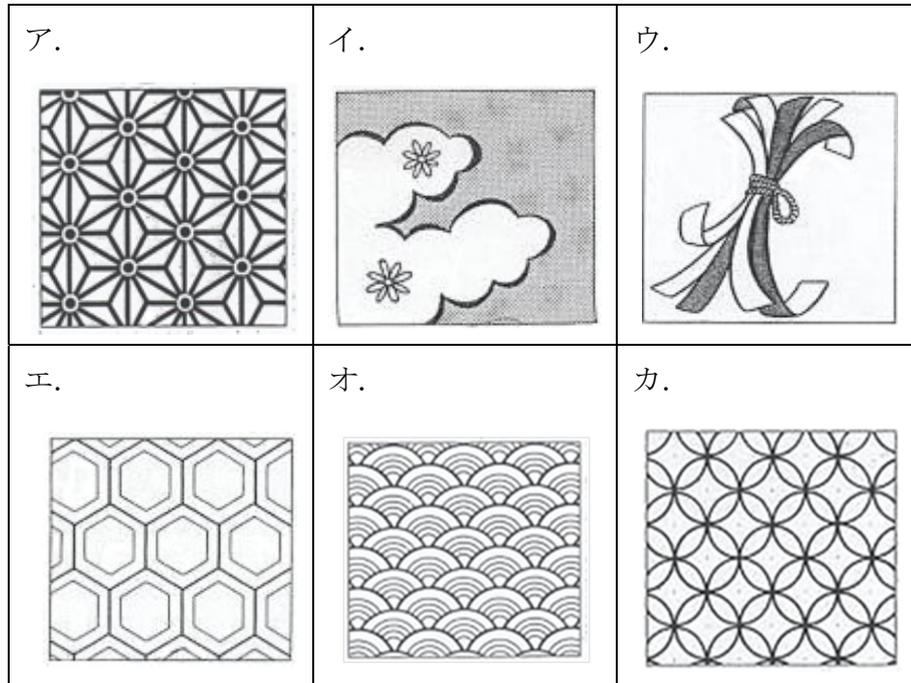
- ア. 剣先 イ. 身八つ口 ウ. 衽下がり
 エ. 前身ごろ オ. 抱幅 カ. 振り
 キ. 衽下 (棲下) ク. 共衽 (掛衽) ケ. 衽

[語 群 II]

- コ. くり越し サ. 脇縫い シ. 袖口
 ス. 背縫い セ. 袖幅 ソ. 衿
 タ. 袖付 チ. 袖丈 ツ. 後身ごろ

問題3. 次の代表的な古典文様の名称について、下記の中から適当なものを1つずつ選び、記号を記入しなさい。

- | | | |
|-------|--------|--------|
| 1. 亀甲 | 2. 熨斗 | 3. 青海波 |
| 4. 七宝 | 5. 麻の葉 | 6. 雲取り |

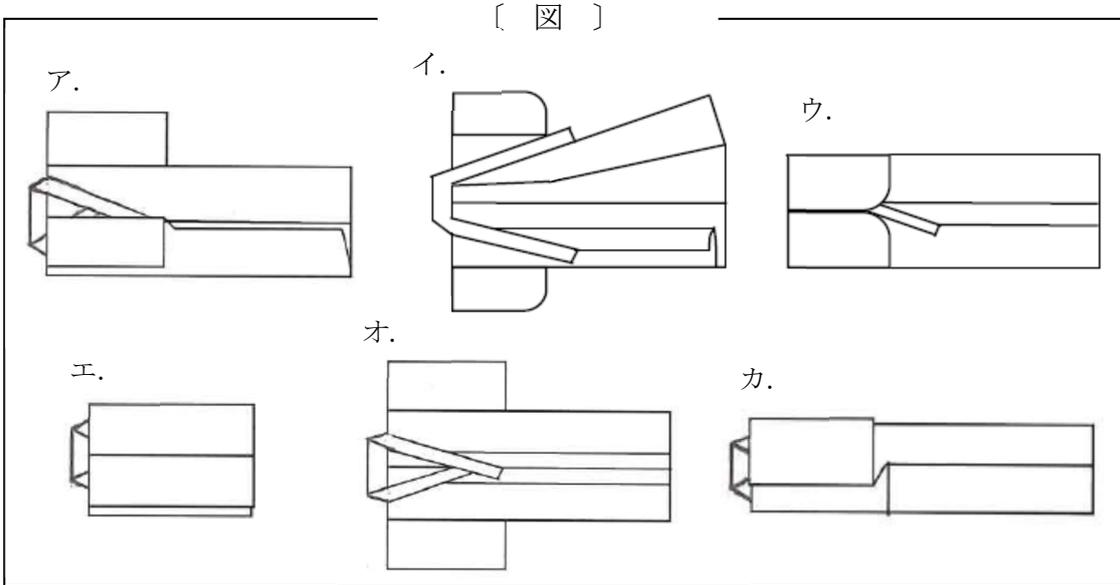


問題4. 次の男女の着物の違いを述べた文章について、正しい方を選び記号を記入しなさい。

1. 女物の着物には身八つ口が (ア. あり イ. なく)、(ウ. 振り エ. 人形) がある。
2. 男物の着物の衿は (ア. 棒衿 イ. 広衿) であり、くり越しが (ウ. ある エ. ない)。
3. 男物の着物は (ア. 身丈 イ. 着丈) に仕立ててあり、おはしよりが (ウ. ある エ. ない)。

問題5. 長襦袢のたたみ方について、下記の図の中から必要なものを選び、正しい順序になるように並べて、記号を記入しなさい。

(1) → (2) → (3) → (4)



問題6. 次の織物について、あてはまる説明文を下記の中から1つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 塩瀬 2. 紹 3. 縮緬

ア. たて糸に撚りのない生糸、よこ糸に撚りの強い生糸を用いて平織にしたのち、特殊な液体に入れて煮て精練して仕上げた絹織物。「しぼ」という凹凸がある。

イ. 織ってから精練したもので、光沢がありなめらか。帯地・羽織の裏地などとされる絹の紋織物。紋綸子は訪問着として用いられる。

ウ. からみ織りの一種で透けるように織り上げたもの。夏は喪服、長襦袢、半衿、帯揚げ、帯などに用いられる。

エ. 羽二重地の厚い絹織物。布面によこ畝が現れるのが特徴。

問題7. 下記の空欄にあてはまる染めの手法を選び、記号で記入しなさい。(同じ記号を何度使用してもよい。)

衣服地には、生地を織ってから染める (1) と、織糸を染めてから織る (2) とがあり、紗は (3) で、絹は (4) である。

ア. 先染 イ. 後染

問題 8. 着物の用途、格等に関する次の記述のうち、誤っているものを2つ選び、記号を記入しなさい。

- ア. 上前の胸に柄があり、前身ごろと衽の柄がつながっているものを訪問着という。
- イ. 紬の訪問着は、礼装になる。
- ウ. 小紋に名古屋帯を合わせても礼装にはならない。
- エ. 留袖に合わせる帯は袋帯でもよい。
- オ. 新郎の袴下の帯は、兵庫帯をする。

問題 9. 次の文章のうち正しいものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 紋服の紋は、五つであれば縫紋でもよい。
- イ. 紬に五つ紋をつけると正式礼装になる。
- ウ. 三つ紋は背紋一つと後袖紋二つである。

問題 10. 次の着物に適した帯を下記の中から選び、記号を記入しなさい。

- 1. 女物の結城紬
- 2. 色留袖
- 3. 男物の着物

ア. 角帯 イ. 袋帯 ウ. 名古屋帯

問題 11. 次の文章の空欄に最も適当なものを下記の中から 1 つずつ選び、その記号を記入しなさい。

1. (①) を略したものが伊達衿で、着物の衿の下にもう一枚重ねる衿のことをいう。
2. (②) は、絞り、無地などがあり、装飾的な意味合いが強い。
3. (③) は、白の塩瀬が一番格が高く、縮緬より上である。
4. 白に金糸、銀糸の (④) は礼装用として用いられる。

ア. 裾よけ	イ. 比翼衿	ウ. 帯揚げ
エ. 帯板	オ. 帯締め	カ. 半衿

問題 12. 次の着物と小物の合わせ方のうち、正しいものを 2 つ選び、記号を記入しなさい。

ア. 色柄物の帯締め	_____	黒留袖
イ. 白扇	_____	新郎紋服
ウ. 黒のエナメルの草履	_____	喪服
エ. 黒の帯揚げ	_____	色留袖 (染め抜き五つ紋)
オ. 色物の帯揚げ	_____	訪問着

問題 13. 次の着物の着用時季について、() にあてはまる最も適当なものを、下記の中から 1 つずつ選び、記号を記入しなさい。

1. 絹の訪問着は (①) に着用する。
2. 紬の袷の着物は (②) に着用する。
3. 小紋の単の着物は (③) に着用する。

ア. 7月と8月	イ. 9月から3月	ウ. 7月のみ
エ. 10月から5月	オ. 5月から10月	カ. 6月と9月

問題 14. 着物の着付けをするときの心得として、正しいものを2つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. 着付けをする時のクリップや小物は、着物用がなければ代用品（洗濯ばさみ、生ゴム等）を使用しても良い。
- イ. 身なりは特に注意する必要はなく、時計やアクセサリ一類を外す必要は無い。
- ウ. 着付けを始める前には丁寧に一礼をする。
- エ. ひも類は、首や肩にかけて作業をする。
- オ. 礼装用の足袋は白無地、コハゼ付きのもので、刺繍や柄がついていないものを使用する。

問題 15. 次の記述のうち、誤っているものを1つ選び、その記号を記入しなさい。

- ア. パーマネントウェーブ・結髪・化粧等の方法により容姿を美しくすることは、美容師でなければ業として行うことができない。
- イ. 美容師でなければ、花嫁の結髪・化粧を業として行えない。
- ウ. 有料で着物を着付ける場合は、美容師免許がなければ行えない。
- エ. 美容師免許を取得すれば、全国どの都道府県でも美容を業として行うことができる。

全日本着付け技能センター

2級学科試験【模範解答】

令和 年 月 日()

受験番号	—
------	---

氏名	
----	--

問題1 (各2点)

1 エ	2 イ	3 ウ
-----	-----	-----

問題2 (各2点)

1 カ	2 ア	3 ケ	4 エ	5 ク	6 キ
7 ソ	8 コ	9 タ	10 シ	11 チ	12 ス

問題3 (各1点)

1 エ	2 ウ	3 オ	4 カ	5 ア	6 イ
-----	-----	-----	-----	-----	-----

問題4 (各1点)

1	ア	ウ	2	ア	エ	3	イ	エ
---	---	---	---	---	---	---	---	---

問題5 (各2点)

1 オ	2 ア	3 カ	4 エ
-----	-----	-----	-----

問題6 (各2点)

1 エ	2 ウ	3 ア
-----	-----	-----

問題7 (各2点)

1	イ	2	ア	3	ア	4	イ
---	---	---	---	---	---	---	---

問題8 (各2点)

イ	オ
---	---

問題9 (2点)

ウ

問題10 (各2点)

1 ウ	2 イ	3 ア
-----	-----	-----

※順不同

問題11 (各2点)

1 イ	2 ウ	3 カ	4 オ
-----	-----	-----	-----

問題12 (各2点)

イ	オ
---	---

※順不同

問題13 (各2点)

1 ア	2 エ	3 カ
-----	-----	-----

問題14 (各2点)

ウ	オ
---	---

※順不同

問題15 (2点)

ウ
